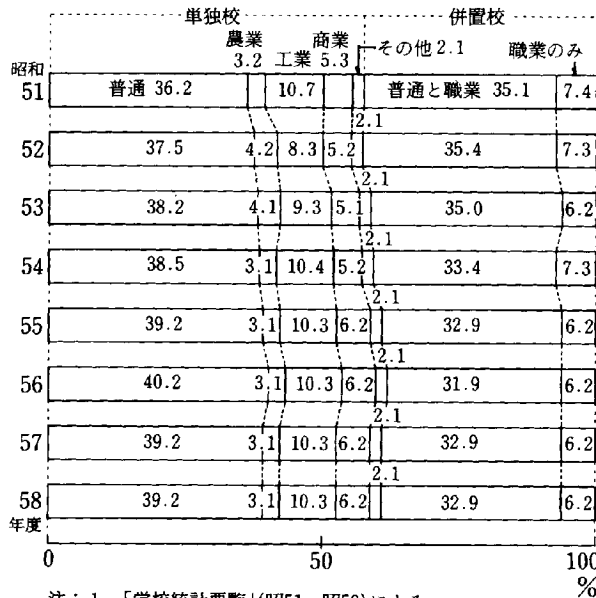


緩慢な減少傾向を示している。単独校では、普通科が占める割合に若干の変動が見られ、他の学科では、ほとんど変動が見られない。併置校では、普通科と職業学科の併置が昭和54年度以降漸減し、昭和57年度以降は横ばいである。また、職業学科のみの学校では、昭和55年度以降変動が見られない(図2-4-11)。

一方、定時制課程では、昭和55年度以降変動が見られない(図2-4-12)。

図2-4-11 学科別高等学校構成比(全日制)



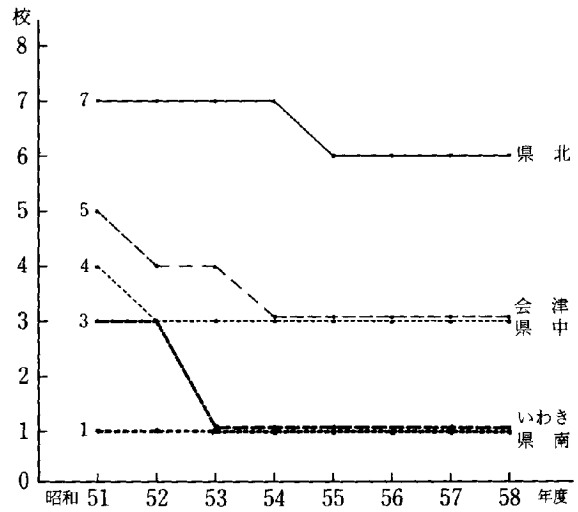
注：1. 「学校統計要覧」(昭51～昭58)による。  
2. 構成比=(学科別学校数)÷(全日制高等学校数)×100  
3. 学校数は、県立、私立の合計である。

したがって、今後は、中学校卒業生数の動向を踏まえ、科学技術の進歩に伴う産業構造の変化や、生徒の能力・適性及び興味・関心等を考慮しながら学校・学科の適正配置について検討するとともに、昭和61年度以降に急増する地域の収容力の適正化に努める必要がある。

(4) 学校規模

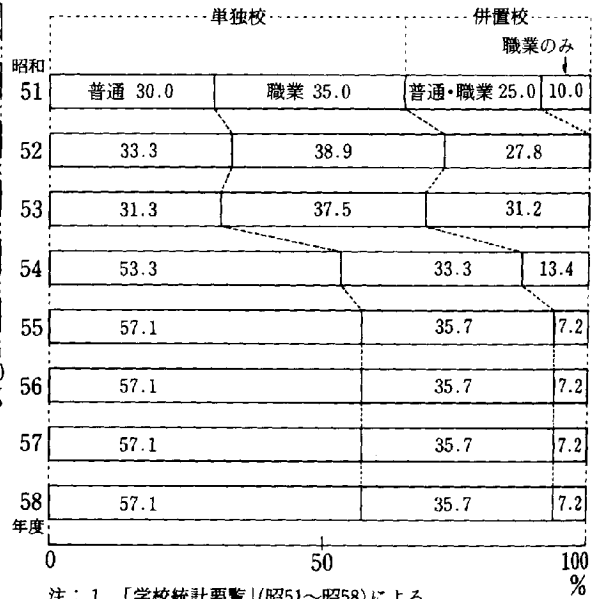
昭和51年度から昭和58年度までの県立高等学校の規模別構成比の推移を見ると、全日制課程では、21学級から25学級までの学校が昭和55年度以降減少傾向を示し、16学級から20学級の学校が増加している(図2-4-13)。また、定時制課程では、1学級から5学級の学校が増加し、

図2-4-10 地域別高等学校数の推移(定時制)



注：1. 「学校統計要覧」(昭51～昭58)による。  
2. 学校数には、分校を含む。

図2-4-12 学科別高等学校構成比(定時制)



注：1. 「学校統計要覧」(昭51～昭58)による。  
2. 構成比=(学科別学校数)÷(定時制高等学校数)×100  
3. 学校数は、県立のみである。